『敢 為 の 精 神』

京都府
京都尚武館
中学２年　　森　　一　晃

「真理似寒梅　敢侵風雪開」正しいことは、簡単には達成出来ないが、敢えて風雪に逆らい正しい物を掴み取る為に信念を貫き通せば花開く。敢えて～するという言葉は、新渡戸稲造が、武士道を義、勇、仁、礼、誠、名誉、忠義を七つの徳目として表した勇、困難に屈しないでやり通す敢為の精神だと理解します。ところで皆さんは「武士道」が最初に英文で出版されたことを知っていますか？この時に「武士道」という言葉は、BUSIDO : the soul of japan と記されています。つまり、「武士道」は日本人の為に出版された訳ではなく、むしろ世界の人々に日本人の思想を伝えるために書かれた外国人向けの本なのです。その時代の背景も手伝い、瞬く間に十七ヶ国語で翻訳され世界的ベストセラーになりました。ここまで沢山の人々に共感を得られたのは、「武士道」の精神が、人が人として美しく生きる姿勢であり、七つの徳目に基づいて、武士に限らず女性、子供、万人に与えられる精神である為、またそれが世界各国共通の理想の道徳観念だったからこそ浸透したのでしょう。

現代に、武士は存在しませんが、世界では痛ましい事件、内紛、無差別テロが起こっていることは事実であり、国籍、宗教、文化、経済、バックボーンが異なる民族が、共通の道徳観念を持ち、互いを尊重し合うことは、今の時代だからこそ大切であると思います。東日本、熊本の大震災の時、物資配給の受け取りの為、長蛇の列に並び皆が冷静に秩序を持って行動し、混乱の中、略奪、犯罪行為も起きず、助ける側の根付く義務感、助けられる側の品位、謙虚さ、寛容、勇気を忘れず、自らを律することの出来る精神が無意識のうちに宿っている日本人の心のＤＮＡを、困難に立ち向かい何度でも立ち上がる敢為の精神を次世代を担う私達は、継承しなければいけません。

私は、その精神を剣道を通じて、剣道を教えて下さる先生方から日々学んでいます。目標を達成出来ない事への苛立ちと焦りから歩みを止めて下を向いていた日々が続きました。そんな時に、ふと祖母から教えて貰った寒梅の詩を思い出しました。祖母は、いつも私のことを気にかけてくれ、試合の日には、怪我なく悔いの無い試合が出来る様にと、お仏壇に蝋燭と線香をあげてくれる優しい人でした。しかし、祖母は、私が小学生の時、亡くなりました。最期の時まで決して諦めず、周囲には明るく振舞っていた祖母は、武士道にも沿う凛と咲く梅の花の様に強く生き抜いた女性だったと思います。寒梅の詩が今の私の支えになっています。幼い頃描いた夢はまだ青写真のままになっていますが、この儘では終われない、重ねた悔しさと涙を糧に勇気を出して一歩踏み出さなければと思えるようになりました。瞼を閉じれば優しく微笑む祖母の顔が浮かび「一晃、それでいいんやで、頑張り。」と言う声が聞こえてきます。京都尚武館で最高学年となる一年、弱い自分から脱却し、強い心を養う為に日々稽古に精進しようと決めています。

剣の理法を習得する過程に於いて私はその道を歩み始めたばかりですが、生涯の師や共に高め

合える仲間、そして誰よりも信頼出来る友と出会い、礼節を尊び、心身共に鍛えられ、一生涯続けられる剣道に出会えたことに感謝し、誇りに思います。私は可能な限り生涯剣道を貫くと共に剣道の素晴らしさを次世代の子供達、海外を含む多くの人々に伝えていきたいと思います。

不器用な私に出来る事は限られていますが、いつもこの寒梅の詩を胸に秘め、敢為の精神を持っていれば、喜びと悲しみが繋がり、輝く未来が待っていて、胸を張れる自分になれると信じています。必ず、花開いてみせます。

そして私が京都尚武館を卒部し、何年もの年月が過ぎても、先生のお宅の庭の小さな梅の花が綻んだら、こんな不器用な教え子がいたことを思い出していただける様な記憶に残る剣士になりたいと思っています。